芦別市地域公共交通会議における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

芦別市は、人口の減少及び高齢化の進展並びに広大な行政区域に集落が点在する地理的問題を有している。こうした中で、市内路線バスは、通院、通学、通勤、買い物など市民生活の足として重要な役割を担っている。

特に、当市の人口に占める65歳以上の高齢者割合は47%を超え、滝川市、砂川市、旭川市など他市に通院する方がいることから、市内路線バスは、JRや地域間幹線系統（滝川・芦別線）と接続する重要な交通手段となっており確保維持が必要となっている。

生活交通確保維持改善計画の目標

1	本町循環線	4．7人／1運行当たり
2	上芦別線	6．4人／1運行当たり
3	頼城線	6．7人／1運行当たり
4	芦別温泉線	6．8人／1運行当たり

令和５年度事業概要

【本町循環線】　①芦別駅前～あけぼの団地～芦別駅前
　　②芦別駅前～市立病院～芦別駅前
【上芦別線】　③芦別駅前～南1条東1丁目～さつき団地（国道経由）
　　④芦別駅前～市立病院～さつき団地（市立病院経由）
【頼城線】　⑤芦別駅前～南1条東1丁目～頼城（国道経由）
　　⑥芦別駅前～市立病院～頼城（市立病院経由）
【芦別温泉線】　⑦芦別駅前～市立病院～芦別温泉

地域公共交通の現況

・JR根室本線（芦別駅、上芦別駅、野花南駅）
・空知交通（株）（市内4路線7系統）
・北海道中央バス（株）（地域間幹線1路線、都市間高速1路線）
・スクールバス（4路線）
・共立タクシー(有)（芦別・新城線実証実験運行）

協議会開催状況

●平成30年6月28日　平成30年度第1回会議を開催
　地域内フィーダー系統確保維持計画認定申請について　外
●平成31年1月18日　平成30年度第2回会議を開催
　地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について　外
●令和元年6月27日　令和元年度第1回会議を開催
　地域内フィーダー系統確保維持計画認定申請について　外
●令和2年1月17日　令和元年度第2回会議を開催
　地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について　外
●令和2年6月下旬案内
　令和2年度第1回（書面）会議を開催し、7月6日書面議決
　地域内フィーダー系統確保維持計画認定申請について　外
●令和2年11月26日　令和2年度第2回会議を開催
　地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について　外
●令和3年6月18日案内
　令和3年度第1回（書面）会議を開催し、6月28日書面議決
　地域内フィーダー系統確保維持計画認定申請について　外
●令和4年1月13日案内
　令和4年度第2回（書面）会議を開催し、1月20日書面議決
　地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について　外
●令和4年5月18日　令和4年度第1回会議を開催
　地域内フィーダー系統確保維持計画認定申請について　外
●令和4年10月7日　令和4年度第2回会議を開催
　地域公共交通計画（案）について　外
●令和5年1月18日　令和4年度第3回会議を開催
　地域公共交通確保維持改善事業の事業評価及び
　計画策定に係る事業の取組状況について　外
●令和5年6月23日　令和5年度第1回会議を開催
　地域内フィーダー系統確保維持計画認定申請について　外
●令和6年1月10日　令和5年度第2回会議を開催
　地域公共交通確保維持改善事業の事業評価　外

令和５年度事業の実施状況

１）プロセス、創意工夫

・平成23年度に実施した市民アンケート調査及び昨年度実施した「地域公共交通調査事業」の結果をもとに、25年11月から4路線による循環バスの本格運行を開始し、平成28年10月には系統数や便数の見直しを行った。令和元年12月に駅前整備を行い地域公共交通のハブ化を図り、令和2年10月1日に運行ダイヤの一部見直しを行った。 ・バス事業者事務所、バス車内、庁舎内デジタルサイネージ、市広報紙、市ホームページでフィーダー路線を周知
・バス車体にマグネット広告を掲示し、少額ではあるが運送外収入を確保

２）運行系統

①②本町循環線

③上芦別線（国道経由）

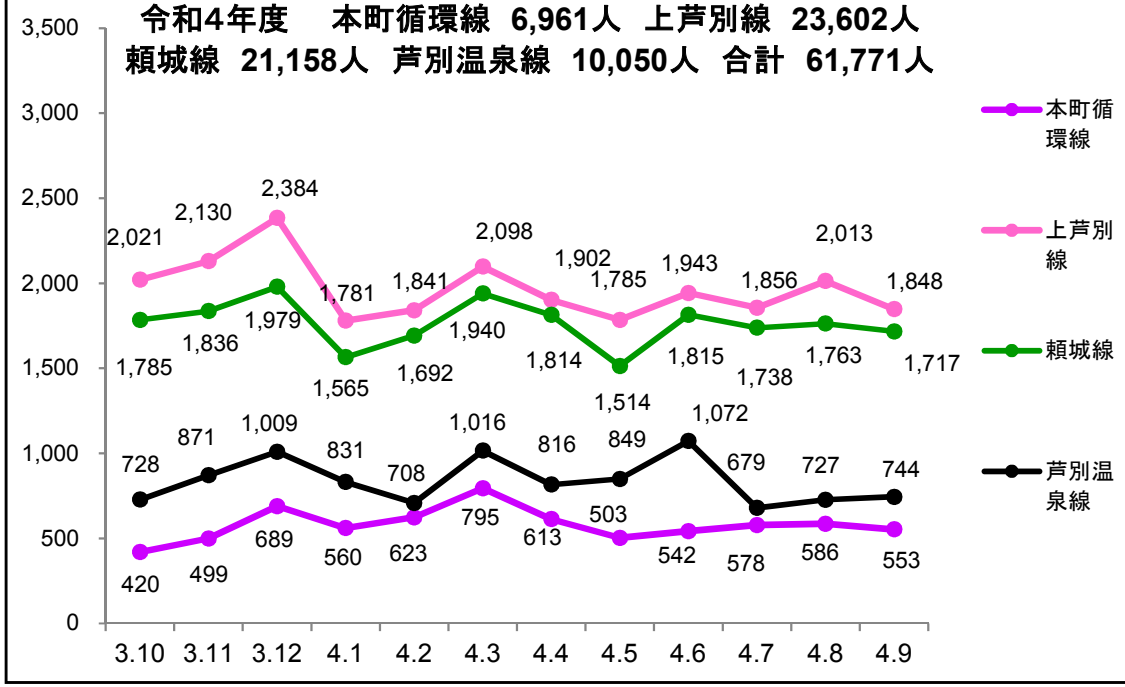
④上芦別線（市立病院経由）

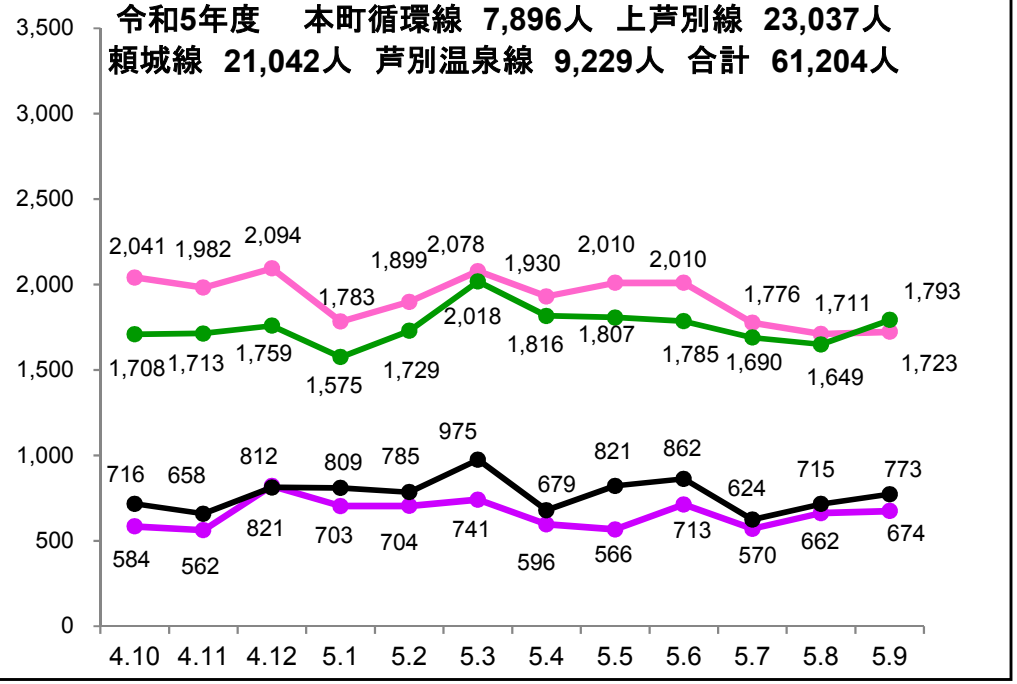
⑤頼城線（国道経由）

⑥頼城線（市立病院経由）

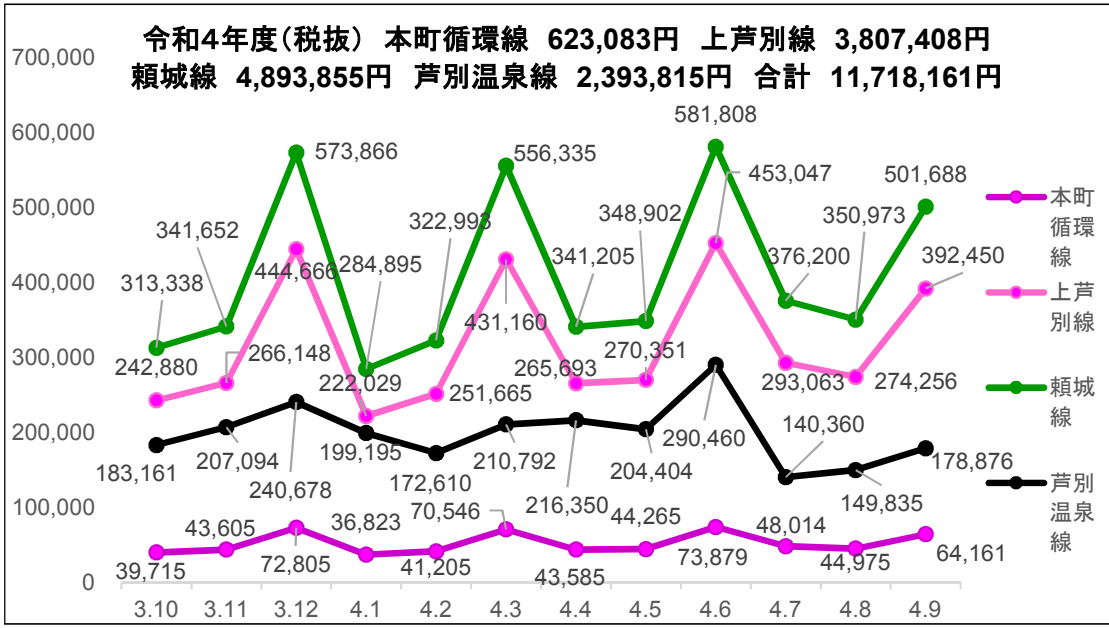
⑦芦別温泉線

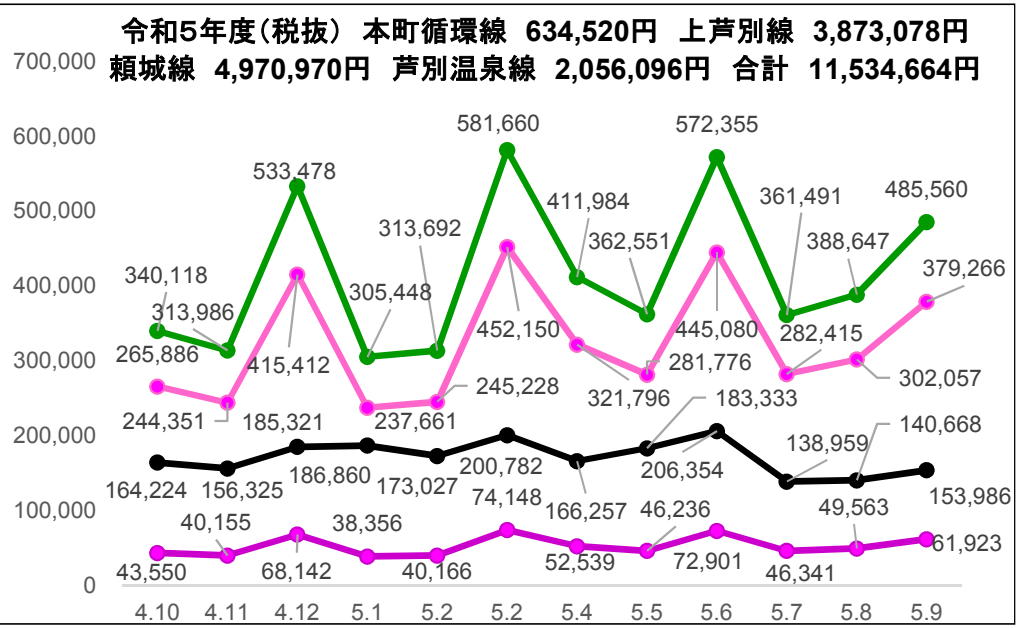
３）利用実績


令和4年度　本町循環線 6,961人 上芦別線 23,602人
頼城線 21,158人 芦別温泉線 10,050人 合計 61,771人
本町循環線
上芦別線
頼城線
芦別温泉線
3.10 3.11 3.12 4.1 4.2 4.3 4.4 4.5 4.6 4.7 4.8 4.9


令和5年度　本町循環線 7,896人 上芦別線 23,037人
頼城線 21,042人 芦別温泉線 9,229人 合計 61,204人
4.10 4.11 4.12 5.1 5.2 5.3 5.4 5.5 5.6 5.7 5.8 5.9

４）収入実績


令和4年度(税抜) 本町循環線 623,083円 上芦別線 3,807,408円
頼城線 4,893,855円 芦別温泉線 2,393,815円 合計 11,718,161円
本町循環線
上芦別線
頼城線
芦別温泉線
3.10 3.11 3.12 4.1 4.2 4.3 4.4 4.5 4.6 4.7 4.8 4.9


令和5年度(税抜) 本町循環線 634,520円 上芦別線 3,873,078円
頼城線 4,970,970円 芦別温泉線 2,056,096円 合計 11,534,664円
4.10 4.11 4.12 5.1 5.2 5.2 5.4 5.5 5.6 5.7 5.8 5.9

5）事業実施の適切性

フィーダー事業は計画どおり適切に実施された。

6）目標・効果達成状況

空知交通㈱が運行する市内路線バスについて、4路線7系統を計画どおり運行したことにより、市民生活の足の確保がなされた。

【本町循環線】

目標値4．7人／1運行当たりに対し5．3人／1運行当たりで目標を達成した。

【上芦別線】

目標値6．4人／1運行当たりに対し6．1人／1運行当たりで、目標を達成できなかった。他の路線ではコロナ禍の影響から回復傾向によることから、人口減少が主な要因と考えられる。

【頼城線】

目標値6．7人／1運行当たりに対し6．9人／1運行当たりで、目標を達成した。

【芦別温泉線】

目標値6．8人／1運行当たりに対し6．3人／1運行当たりで、目標を達成できなかった。主な要因は、人口減少による利用者の減と、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したものの、利用者が戻ってきていないことがあげられる。

7）事業の今後の改善点

・市民が安心して暮らすことができるよう通院、通勤、通学、買い物など、生活の足となる公共交通路線の維持確保をするため、地域公共交通計画を策定し、令和5年度より計画に基づき、生活交通ネットワークの構築を進める。
・令和5年10月から令和6年9月までの期間おいて、公共交通の利用に関する記事を2回、市役所ロビーのデジタルサイネージでの周知を期間配信し利用促進を図る。

8）地方運輸局における二次評価結果